

10/19(土) 福岡城の現地見学会を行います

福岡城は戦国時代を代表する智将・黒田長政が築城した屈指の名城です。現在では、国指定重要文化財の多聞櫓、下之橋御門等の歴史的建造物や、築造当時から残る石垣が往時の城郭の雰囲気をも物語っています。

そのような福岡城の歴史的価値を再確認し、福岡の歴史に思いを馳せる機会とするため、現地見学会を行います。今回は福岡城の中心である天守台について文化財担当者の解説も交えながら、今に残る石垣や礎石を見学します。

つきましては、市民の皆様への周知・広報にご協力いただきますようお願いいたします。



1 開催日時

令和6年10月19日(土) 10:00 開始、12:00 終了

2 開催場所

福岡城 天守台

福岡市中央区城内(舞鶴公園内) ※別紙地図参照

※雨天の場合も実施いたします。

※当日連絡先は、090-3737-0371(見学会当日専用)まで。

3 参加者

申し込み不要。参加費無料。※小学生以下は保護者同伴

4 内容

福岡市の文化財専門職員の解説による、福岡城天守台の見学

※見学時間は1回あたり約30分。うち解説時間は15分程度を予定。

5 その他

11月9日(土)には潮見櫓工事現場の見学会も予定しています。

お問合せ先

経済観光文化局文化財活用部史跡整備活用課 中村・大塚

TEL : 092-711-4784 (内線 3810) FAX : 092-733-5537

メールアドレス : shiseki.EPB@city.fukuoka.lg.jp

《備考》

【国史跡 福岡城跡とは】

福岡城は初代藩主黒田長政により、1601(慶長 6)年~1607(慶長 12)年にかけて築城された平山城です。城内は本丸・二ノ丸・三ノ丸で構成されています。城内面積は約 41 万㎡、濠を含めた総面積は約 110 万㎡で、九州の城の中でも有数の規模です。

城内には 47 の櫓があったとされ、その他に本丸御殿、御下屋敷など多くの建造物がありましたが、明治以降ほとんどの建物が解体・払下げ等で失われ、城内に現存する建物は多聞櫓などごく一部です。1957(昭和 32)年に国史跡指定を受けています。

【福岡城の天守台について】

福岡城の天守台は大中小の 3 区画で構成されており、大天守台がいわゆる天守台と呼ばれるものです。大天守、中天守の語は江戸時代の文献には見られず、明治以降に呼ばれるようになったものと考えられていますが、小天守の語は 18 世紀後半の江戸時代後期の文献に見られます。

天守台の石垣は自然石をそのまま積み上げる野面積みの技法が用いられ、福岡城の石垣の中でも古いもので、天守台が城の中で最初に築かれたものであることを示しています。

天守台の上面の大きさは東西約 25m、南北約 22m で、天守台の内部は地下室式の穴蔵になっており、建物を支えるための礎石が 40 個残っています。

天守台の標高は 36m で、天守台の上からは市内を一望できたとみられます。

【福岡城天守台 地図】

